

説教題：神の恵みの栄光のために
イエスと共に歩み、神の武具を身につける

OICの皆さん、お早うございます。そして父の家によろこ

今日も引き続き、聖霊の靈感を受けて使徒パウロが書いた手紙、エペソ書を読んでいきましょう。前回のメッセージでは、パウロがエペソの信徒に、したがってすべてのクリスチャンに、クリスチャン生活を送るために「神の恵みの栄光のために-心からの服従と力をもってイエスと共に歩むこと」をどのように指示したかを見ました。今週、私はメッセージのタイトルを「神の恵みの栄光のために-イエスと共に歩み、神の武具を身につける」としました。注：各メッセージのタイトルでは、エペソ人への手紙のメインテーマである「励まし」を繰り返しています：神の恵みの栄光のために。

(エペソ 6.13)：「ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。」

前回のメッセージの最後を見て、「ですから」が何を指し示しているのかを見ましょう。

教訓その2によって、イエスとの歩みにおいてサタンを考慮する必要がないふりをするクリスチャンの厳しさを示した後、私は、イエスとの従順な歩み (Close Walk) の素晴らしさを悪魔が奪うことはできない、と言って締めくくりました：

教訓 その2：(9月22日) 1世紀のクリスチャンに対する使徒ペテロの警告を、私たちにも当てはまらないふりをするのは、グリズリーベアーのいる道が無防備にジョギングするようなものです。私たちの娘は土鎧を持っていますが、私たちは御霊の剣を持っています。グリズリーベアーは咆哮するライオンのように、私たちよりも大きく強いです。あなたの敵である悪魔は、咆哮するライオンのように徘徊し、誰かを食い殺そうとします。しかし、私たちは天地の主イエスのそばを歩いているので、恐れることはありません。イエスが地上に戻られるとき、ご自分ほど全能ではない天使を遣わし、サタンを1000年間縛られます。神と違って、サタンは無限ではないのです。クリスチャンがサタンと戦えば戦うほど、サタンの狡猾さに関係なく、サタンの限られた注意を奪い、サタンが確実に手中に収めたと思っている多くの罪人からサタンの注意をそらすこととなります！悪魔は、イエスとの緊密な従順の歩みの素晴らしさを奪うことはできません：そう、神への服従は、子育てであれ、ビジネスであれ、明らかに悪魔と戦うことであれ、どこに

いても神の宣教師であることであれ、素晴らしいものです。いずれにせよ、私たちは神の恵みの栄光のもとに、神の平安を得ることができます！

さて、話を先に進めましょう。神はクリスチャンが天の領域でサタンとその悪の勢力と戦うことを求めておられることを「ですから」のことばによって明確にしました。パウロは次に、約束された勝利を保証するために、神が従順な兵士たちに与えてくださる強力な武具について述べています。（ローマ 8.37）：「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」パウロは、神の武具を自分で選べる霊的保護として提示しているではありません。その必要性は、ここ（エペソ 6.13）で述べられています。「…邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。」

最初の神の武具：「14では、しっかりと立ちなさい。腰には**真理**の帯を締め…」聖霊がパウロにこの鎧を最初に置かせたのは、ローマ兵の最も弱い部分である下腹部以下、つまり腰、原語ではὀσφύς（osphys オスフィス）を守るためかもしれません。スクリーンに映し出されたローマ兵は、下腹部や腰の保護を腰で支えていることを明らかにしている。

キリストの体はすべてつながっており、必要とされているというパウロの教えは、（1コリント 12.22-23）に含まれています。：「22それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。23また、私たちは、からだの中で比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになります、」

戦場では、名誉が豊かであればあるほど、より慎重に身を守ると言う意味があります。日本やアジアでは今でもプロボクシングが盛んだと聞きます。ベルトや腰の下にパンチを入れるのは常に反則でした。ローマ人が戦ったような生死をかけた戦いにはルールがなく、悪魔との霊的戦いにもルールはないのです。悪魔は「汚い」戦いをします。あなたの人生で最も弱いところを選び、そこに炎の矢を放ちます。聖霊は、あなたがクリスチャン生活の最も弱い部分に、聖書の真理の箇所を祈り、暗記する必要があるのを、これを最初に置かれたのです。注：今日、サタンに対抗する6連発銃の弾丸を英語と日本語で配りました。少なくとも数発の弾丸を覚えて、一緒に撃ってください！悪魔はバカではありません。私たちの弱点を知っています。戦う準備をしてください。

（エペソ 6.14b）：「胸には正義の胸当てを着け、」

私は、主の正しい臨在が私たちの心を守り、悪霊はそこから逃げていくと考えたいです。もちろん

ん、この鎧を身に着けて祈ることは、日々正しく生きることよりも簡単なことが多い。しかし、この鎧は、敵から身を守るだけでなく、イエスにより近づき、正しく歩むことを助けるためのものでもあるのです。

(エペソ 6.15) : 「足には平和の福音の備えをはきなさい。」

最良の防御は良い攻撃である」と誰かが言いました。平和の福音の準備；罪人に福音を伝える聖書の箇所をいくつか暗記する必要があります。このように、この足の鎧は、罪人を主イエスに近づけることによって、クリスチャンの兵士を悪魔に対抗できるようにするのである。

(1 ペテロ 3.15) : 「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」クリスチャンの中には、自分の内にある希望について説明するために「問われるのを待たない」という賜物を持っている人もいます！その賜物とは、聖霊がイエスについて語るように促していることを知る賜物です。どちらの場合も、福音の聖句が書かれた霊的な靴を履いている人だけが、戦場で前進することができるのです。

イエスが(ルカ 19.10)で言われたように、これがすべての武具、すべての戦いの最終目的です。：「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」 私たちは主がされたようにする主の大使なのだ。

教訓 その1

私たちはイエスの大使であり、イエスがされたように、失われたものを求め、救うのです。サタンとその使者たちに対する私たちの個人的な戦いと、それに続く戦いのために神の武具を着て祈ることは、その目的のためです。

もちろん、私たちが受け取るすべての良いものは、キリストの十字架のおかげで、父なる神から、イエスを通してもたらされます。すべての武具の正体はイエスです。パウロは、イザヤ書 11 章で「エッサイからの若枝」を預言した預言者イザヤから、武具の一部を引用しました。この枝とは、メシア、キリストであるイエスのことです：(イザヤ書 11.5) より、「正義はその腰の帯となり、真実はその胸の帯となる。」真実はその胸の帯となる。あなたがたの衣を真理で飾った。(イザヤ 59.17) より、主が「その聖なる鎧」を身に着け、その国が義人に対して非常に不当であったときに、主が選ばれた民を救うために介入されたときに、「義の胸当てを身に着け」、(イザヤ 52.7) より、「平和のゴスペルの備えをあなたの足に履かせた」：「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」 神の

軍隊の兵士が罪人に福音を伝えるとき、彼は天上に同意し、下にいるサタンに言います：「イエスよ、私たちの神は支配しておられます！」

(エペソ 6.16)：「これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。」

パウロは、その矢で、私達が、邪悪なものの炎の矢をすべて消すことができる信仰の盾をどのように取る必要があるかを述べています。使徒ヨハネもまた、(1ヨハネ 4.4)にこう書いています。：「…そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。」

ブルース牧師、私の信仰はとても小さいのです。悪魔に勝てるわけがない。と言われるかもしれませんが。そうです、聖書は次のように語っています。(ローマ 12.3)：「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった**信仰の量り**に応じて、慎み深い考え方をしなさい。」これは、イエスが明らかにしていない「使命」や「賜物」を推定することにも当てはまります。

牧師の答：しかし、私たちは霊的戦いに身を置くことを選択しないのだから、戦う以外に選択肢はないのです。「持っているものを使ってください。そうすれば、神はあなたを驚かせるでしょう！」人間の筋肉のように、アスリートは使えば使うほど筋肉が成長することに気がつきます。覚えておいてほしいのは、信仰を使うことを恐れているクリスチャンだけが、小さくても大きくても、本当の危険にさらされているということです。。神は約束される、最も小さな信仰にさえ応えてくださるのだから。信仰は世に打ち勝ったのであり、神はこれからも世に打ち勝つつもりなのだ。

しかし、次の問に対する牧師の二番目の答：「私の信仰はとても小さい。悪魔に勝てるわけがないです。」 神の恩寵の栄光のために、「小さな信仰」を加え合う戦いに、仲間の戦士たちと参加しましょう。その概念や考えがローマを世界征服に導いたのです！

ローマ軍には、敵対する軍隊に対してほとんど無敵の陣形があった。それはファランクスと呼ばれるものでした。兵士たちは密接に並んで立ち、後方の兵士は前方の兵士の頭上に盾をかざしました。その目的は矢をそらすことであり、手と手による戦闘が戦いを決定づけたのです。ローマ人は手と手の戦いに秀でていました。教会のチームワークは、邪悪なものの炎の矢をそらしませす。信仰の盾のファランクスは、イエスのために奉仕するチームとして緊密に働くことのできる地域教会のクリスチャンに当てはまります。そう、私たち個人の武具や盾も必要だが、信仰が重なり合う神の軍隊こそ、最高のキリストの体です！

(エペソ 6.17a) : 「救いのかぶとをかぶり、」。 救いの兜、祝福された保証を失ったイエスの羊たちのために、私はよく祈っている。 ファニー・クロスビーの賛美歌のように： 「イエスは私のもの！ ああ、なんという神聖な栄光の予感。」 あなたが神の臨在や栄光をどのように感じていたとしても、信仰によってイエスを受け入れたとき、あなたの心の奥底には、知的な知識を超えた何かがあった。 **あなたは主イエスに出会ったことを知っていた。** その心の奥底で知ることこそ、神の栄光を味わうことなのです。 自分が生まれ変わったことを初めて悟ったその日、あるいはそれ以降に、**神聖な栄光**を体験的に味わうことができたかもしれない。しかし、祝福された保証は神の御言葉の中で次のように語っています。

(1 ペテロ 1.18-19) : 「18 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

親愛なる OIC の聖徒の皆さん、あなたが祝福された保証を失うことは、イエスがあなたを失うことではありません！ 鍵一式を失うのとは違うのです。 悪魔があなたにどのような策略を弄したにせよ、悪魔はあなたの喜びを奪い、そしてあなたの自信を奪いました。 そしてあなたは、自分自身や失敗や罪に依存するようになり、イエスに依存しなくなったのです！ ひとつ質問させてください： 今日、あなたはクリスチャンであり続けたいですか？ もし「はい」なら、神がまだあなたを愛しておられることを示してください！ 詩篇 23.3) でダビデが「主は私の魂を生き返らせ…」と言っているのを思い出してください。また、OIC オフィスにお越しの際は、ご予約いただければ喜んでお手伝いさせていただきます。

教訓 その2

幸福な保証は救いの兜。 祈りの中で、神があなたにそれをかぶせてくださるよう求めなさい。 聖霊は、その兜をしっかりと身につけるために必要なことを、あなたの心に思い起こさせてくださるでしょう。 多くのクリスチャンは、自己励ましのために歌を演奏し、特に、赤ちゃんクリスチャンの時に初めて覚えた歌を演奏します。 祝福された保証を失ったからといって、イエスがあなたを失ったわけではありません！

(エペソ 6.17b) : 「また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」

私たちの罪のない、聖霊に油注がれた聖なる主イエスがサタンに立ち向かわれたとき、戦いの主な武器となったのは神の言葉、聖霊の剣でした。 イエスは、サタンと対峙された時に言いました。

(マタイ 4):: 「4 節：しかし、彼は答えて言いました「それは書かれている」： 7 節、「…とも書かれている」、10 節、「引き下がれ、サタン。「神である主を拝み、主にだけ仕えよ」と書い

である。」 こうしてイエスはサタンに、永遠の神の言葉は普遍的なものであり、誰からも動かさないものであることを思い出させました！ イエスは7節で、「とも書かれている」と言われたときにも、人間的な論法を使っていることに注目してほしい。 剣とは神の言葉であり、あなたの言葉ではないのです。 しかし、あなたの内にキリストを持つ一人の人間として悪魔と議論し、抵抗するとき、自由であることを恐れてはならない。 この対決において、あなたは神の子であり、間もなく神の子となるが、悪魔はそうではないことを忘れてはならない。 親愛なる聖徒たちよ、あなたには最高に優勢である！

(エペソ 6.18) : 「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」パウロはクリスチャンたちに、私たちが最も勝利に満ちたクリスチャン生活を送るためには、他の信者たちによる祈りがいかに必要であるかを思い起こさせている。

「御霊のなかで」.... 聖霊の臨在や聖霊における経験については、さまざまな賜物がある。 ともあれ、「御霊のなかで」とは、すべてのクリスチャンにとって、私たちの心からの祈りだけでなく、神が祈りに加えてくださる力強さを意味します。 パウロは、かつて(ローマ 8.26)で言いました。 : 「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。」

全ての聖徒たちのために...パウロは、サタンとその悪霊どもに敵対する責任を、キリストの体における私たちの生活における最優先事項としています。 これは、ここエペソ人への手紙における、教会に対する神の強調と一致しています。(エペソ 1.22-23) : 「22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」

エペソ人への手紙一章のこの箇所は、神によって死者の中からよみがえらせられ、霊的な領域におけるあらゆる力の上に置かれ、ご自身の体である教会の上に置かれたイエスの偉大な励ましを宣言しています。 イエスの教会に対する万物の頭という立場は、教会の羊飼いであり、悪に対する力の源となるために、教会を支配し、教会と共に行動する称号です。 キリストのからだの一部による祈りについての詳細は、パウロのコリント人への手紙にあります。

(1 コリント 12.26) : 「もし一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。」 つまり、パウロは霊的戦いの文脈で教

会に祈りを要請しているのであり、聖徒の中には靈的戦いの激しい立場にある者がいるかもしれないので、すべての聖徒のために忍耐と願いを尽くして警戒するようということです。

そしてすべてをやり尽くした後、(エペソ 6.13)に 堅く立つこと についての注釈

がっかりさせているように聞こえます！ あなたはこう尋ねるかもしれません：ブルース牧師、すべてをやった後でも、悪魔はまだ私と激しく戦っているのですか？ この神の武具は、悪魔に対して十分ではなかったのですか？ 牧師の答え：結局のところ、旧約聖書と新約聖書の二つの聖句がその答えを示しています。

まず、旧約聖書の一節は、エジプトから逃れるイスラエルの民に迫るパロの軍隊に関するものです：(主エジプト 14.10-14)：「10 パロは近づいていた。それで、イスラエル人が目を上げて見ると、なんと、エジプト人が彼らのあとに迫っているではないか。イスラエル人は非常に恐れて、主に向かって叫んだ。11 そしてモーセに言った。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということを私たちにしてくれたのです。12 私たちがエジプトであなたに言ったことは、こうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちをエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです。」13 それでモーセは民に言った。「恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。14 主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」

第二に、使徒ヨハネによる新約聖書の信頼の立役者である(1ヨハネ4.4)：「子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。」 私たちの栄光への巡礼の歩みにおいて、地上のあらゆるテストや試練の間、私たちの最大の自信は、あなたの内におられる方が世におられる方よりも偉大であることを知ることです。 私たちの内住されるイエスの霊は、この世にいるサタンよりも偉大です。このことは、靈的戦いにおいて私たちを助けてくれます。しかし、ヨハネがここで書いた明確な文脈は、教会に入り込もうとした異端の教師たちに対するものであることを忘れてはなりません。真のクリスチャンたちが、悪魔の子たちであるこれらの人々に、偽りの教えを拒否するように立ち向かっていたことは明らかです。事実、異端の教えはサタンが出来るよりも、もっとキリストの花嫁に害を与えることができます。しかし、サタンに対する個人的な戦いは、個々の信者にとっては、通常、偽りの教えよりも脅威的に感じられます！ 邪悪な者の存在は、聖なる神の子であれば誰でも嫌な気分になるはずですが、しかし、ヨ

ハネ第一のこの聖句は、私たちが個人的にサタンと戦わなければならないときに、権威をもって私たちに確信を与えてくれます。サタンに立ち向かうとき、私たちは神の力を内に秘めたキリストの大使として立ち向かうです。しかし、(1 ヨハネ 4.4) は、私たちが個人的に悪魔と戦う必要がないという意味ではないのです。

クリスチャンの中には、主がモーセにイスラエルに言われたことを利用して、私たちは個人的に悪魔と戦う必要はないと結論づける者もいます。私たちは、(出エジプト 14.14)をただ信頼し知るべきです：「主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」これらのクリスチャンは、ファラオがモーセにとって個人的な悪魔であったことを忘れていません！モーセはパロと個人的に10回対決し、対決のたびに神の怒りの災いを受けました。紅海に辿り着くまでのモーセの主への従順には、静止しているものは全くなかったのです。そのため、多くの対立の後、紅海で、神は任命された指導者モーセに、パロの軍隊を紅海で溺れさせることを前もって告げられました。そして、主の御言葉を聞いたモーセは、次の2つの命令を下して民の恐れを制したのです：(出エジプト 14.13)：「それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。」。そして(出エジプト 14.14)：「主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」

ブルース牧師、あなたは(出エジプト 14.14)は悪魔と戦う助けにならないという意味ですか？悪魔による個人的な攻撃がなくても、試練やテストがしばしばある時、この聖句は、イエスを信頼することを教えています。イエスは、私たちが思っている以上に私たちのために戦ってください、私たちの人生に介入し、支配してくださり、私たち信者のために執り成しの祈りを捧げてください。また、『永遠の王よ、導きたまえ』のような讃美歌を確信を持って歌うこと、あるいはその中の1節だけでも、勝利のためにイエスの近くを歩むことができます。あなたの十字架は私たちの上に掲げられ、私たちはその光の中を旅します：力ある神よ、導きたまえ。しかし、ファラオの軍隊とは違って、悪魔とその使者たちは、イエスが雲に乗って私たちを故郷に連れて帰ってくださるまで、永遠に溺れ死ぬことはないのです！

しかし、エペソ人への手紙6章は、キリストの兵士のための戦争ハンドブックであり、悪魔による個人的な攻撃を受けたときに、神が私たちに戦い方を教えておられることを明らかにしています。神は、聖書の中でクリスチャンが知る必要のないことを教えて時間を無駄にされることはないのです！神の完全な武具を着て祈り、善い戦いをした後にのみ、私たちは(出エジプト 14.14)に頼るのです。「主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」まず、「すべてをやり遂げる」前に、「バトルプランを逆算する」。しかし、沈黙して待つ時は、精力的な戦いの後です。パウロが(エペソ 6.13)でこう言っているのは、そういう意味です。：「また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具

をとりなさい。」イエスはいつも、従順な兵士たちを堅く立たせます。イエスが悪魔をあなたから逃がそうと決断される前に、あなたは悪者による苦しみをもっと耐えなければならないかもしれません。これは（ヤコブ 4.7）のもう一つの適用です。：「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」 イエスのための従順な兵士たちは、神の武具を着て祈り、悪魔と戦うために服従しています。彼らは、イエスが地上に戻ってくるまで、エペソ人とすべてのクリスチャンが神に服従するようにと、パウロは教えています。

（エペソ 6.19-20）：「また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう私のためにも祈ってください。20 私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。」

使徒パウロは、聖霊の賜物によって、イエスと親しく歩みつつ、イエスが折に触れて彼に現れたので、次のことを知っていました。：「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです（2 コリント 4.7）」にあるようにです。だから彼は、どんなクリスチャンに祈りを求めてもおかしくないと考えていました。彼の召命は、福音を口から宣べ伝え、語るべきことを大胆に語るという聖霊の賜物に集中していました。パウロは、いつ、どこで、何を語るべきかという聖霊の感受性には、祈りの支えが必要であることを知っていました。

次に（エペソ 6.21-22）：「21 あなたがたにも私の様子や、私が何をしているかなどを知っていただくために、主にあって愛する兄弟であり、忠実な奉仕者であるテキコが、一部始終を知らせるでしょう。22 テキコをあなたがたのもとに遣わしたのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるためです。」

このことは、パウロがその靈感に満ちた書簡の中で、福音を広めるための人間や悪魔との本当の戦いを除いて、いかに私生活を語ることを避けているかを示しています。ここでパウロは、愛する兄弟であり、主にある忠実な奉仕者であるテキコをエペソに遣わします。

パウロの挨拶と手紙の結びは、1世紀の標準的な形式でした。しかし、彼の雄弁さと靈感は明らかです。サタンに対する神の戦争に加わるようにと何度も呼びかけた後、彼は次のように締めくくりました（エペソ 6.23-24/KJ21）：「23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。」

祈りましょう…

参考文献

KJ21 - 21st Century King James Version (KJ21), Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NASB1995 - New American Standard Bible 1995, New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by The Lockman Foundation. All rights reserved.